

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2018年												2019年																
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月 ~3日	11月 ~10日	11月 ~17日	11月 ~24日	12月 ~1日	12月 ~8日	12月 ~15日
カンピロバクター	37	39	48	105	75	71	122	98	160	113	109	109	56	46	78	65	87	128	102	107	157	62	14	11	15	9	23	26	18
病原性大腸菌	66	51	44	98	78	83	111	80	73	69	119	157	85	81	77	69	51	59	51	37	85	46	13	7	10	11	3	11	4
腸管出血性大腸菌	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	3	1	1	5	3	20	12	22	13	9	5	13	5	3	11	6	3	11	5	12	18	9	4	3	2	4	7	2	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	11	7	24	10	10	16	26	20	17	22	19	10	9	12	13	14	24	11	17	15	8	2	2	4	2	7	4	6
黄色ブドウ球菌 MRSA	12	11	13	12	12	17	14	11	18	7	18	22	22	16	22	14	11	12	18	12	15	10	4	2	1	3	1	3	0
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	7	5	3	1	2	4	2	2	1	3	3	0	0	1	0	0	3	1	2	4	1	0	0	1	0	0	0	0
ロタウイルス	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	1	2	3	2	9	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	3	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	13	13	17	4	4	2	3	0	0	0	6	23	23	23	11	11	2	5	0	1	1	0	0	1	3	2	0	1	6

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
* 前回のその他の1件は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和元年第50週(12月9日~12月15日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	9	結核	9	1	2			2	3	1
三類	0	発生なし	0							
四類	3	つつが虫病	3			2				1
五類全数	13	ウイルス性肝炎(E型, A型除く)	1					1		
		急性脳炎	1				1			
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1		
		侵襲性肺炎球菌感染症	1					1		
		梅毒	1							1
		破傷風	1							1
		百日咳	7		4		1	2		

注) 西部…大竹市, 廿日市市, 府中町, 海田町, 熊野町, 坂町, 安芸高田市, 安芸太田町, 北広島町, 江田島市 西部東…竹原市, 東広島市, 大崎上島町
東部…三原市, 尾道市, 世羅町, 府中市, 神石高原町 北部…三次市, 庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1. インフルエンザ

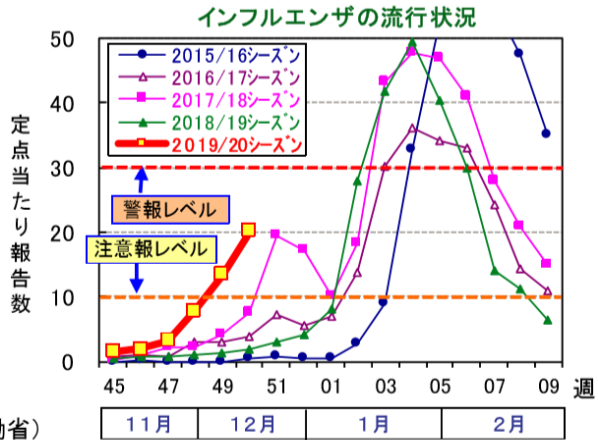
定点当たり20.2人と、前週の約1.5倍に増加しました。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は18件報告されています。今後、さらに流行が拡大する可能性があるため、注意が必要です。

手洗い、咳エチケットを励行し、38℃以上の発熱、咳、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感などのインフルエンザが疑われる症状が見られた場合には、早めに医療機関を受診しましょう。

2. 感染性胃腸炎

定点当たり6.38人の報告があり、前週と比べてやや増加しました。

【参考】今冬のインフルエンザ総合対策について(厚生労働省)
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1:2以上の増減
												↑	↓	
小児科	インフルエンザ	748	20.22	3.65	▲	小児科	流行性耳下腺炎	2	0.08	0.68	○	○	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減	
	咽頭結膜熱	17	0.71	0.31	▲	小児科	RSウイルス感染症	7	0.29	0.91	○	○	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	42	1.75	3.25	○	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	○	○	ほとんど増減なし	
	感染性胃腸炎	153	6.38	11.68	○	眼科	流行性角結膜炎	5	0.63	1.08	○	○	ほとんど増減なし	
	水痘	9	0.38	0.54	○	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	○	○	ほとんど増減なし	
	手足口病	11	0.46	0.67	○		無菌性髄膜炎	-	-	0.08	○	○	ほとんど増減なし	
	伝染性紅斑	13	0.54	0.47	○		マイコプラズマ肺炎	-	-	0.43	○	○	ほとんど増減なし	
	突発性発しん	8	0.33	0.38	○		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	○	○	ほとんど増減なし	
	ヘルパンギーナ	1	0.04	0.09	○	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.11	○	○	ほとんど増減なし		

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	144	女性(20歳代)・推定感染地域: 国外、女性(80歳代)
5	ウイルス性肝炎	1	9	男性(50歳代)・B型
5	急性脳炎	1	17	男性(10歳未満)
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	10	男性(30歳代)
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	26	男性(50歳代)
5	百日咳	2	91	男性(10歳未満)、男性(10歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱(39.5) 気管支炎	14	男	2019/10/30	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型
インフルエンザ	発熱(39.0) 鼻炎	1	女	2019/11/05	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型
インフルエンザ	発熱(40.5)	9	女	2019/11/10	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型
その他の呼吸器疾患	発熱(37.5) 咽頭炎	12	男	2019/11/02	咽頭拭い液	ライノウイルス ヒトメタニューモウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(40.4) 上気道炎	3	男	2019/11/10	鼻汁	パラインフルエンザウイルス2型
その他の神経系疾患	発熱(39.4) 意識障害 熱性痙攣	3	男	2019/10/30	咽頭拭い液 鼻汁	ヒトメタニューモウイルス
その他の疾患	発熱(38.9)	0	男	2019/11/03	糞便	エコーウイルス25型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載